

令和元年 第4回 肝付町議会一般質問

順位	質問者	答弁者	用件（要旨）
1	宮後 竜一	町 長	<p>○肝付町が取り組んできた薬草栽培について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンゾウ栽培の現在までの成果をどう考えるか。 ・令和2年度もカンゾウ栽培に予算を組むのか。 ・他の薬草栽培について。
2	進藤 鈴子	町 長	<p>○観光行政について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・護国神社の敷地の有効利用について。 ・高山地区にお土産販売所の設置を。 ・ヘルスツーリズムの取組みについて。 ・本庁舎の入口の景観について。
3	富永 洋一	町 長 町 長	<p>○令和2年度予算編成に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の声が反映される予算確保を。 ・災害対策（防災）予算をどう考えているか。 ・国土強靱化の予算の活用はどう考えているか。 ・前年度予算の検証（費用対効果）はしっかり行っているか。 <p>○温泉ドーム改修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者意見書に対する当局の議会説明について。 ・改修について十分に調査した上での上程だったのか。
4	柳 一夫	町 長 町 長	<p>○さつまいも土壌病害支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いもが腐る病害が多く発生し、農家の気持ちの落ち込み等ある。現在、どのように考えられているか。 ・国の支援策があるが、この支援はいも部会入会の方々だけか。入会せずデンプンに販売している人はどうなるのか。合わせて農家数は何軒か。 ・支援の中で種いもの調達支援がある。大隅半島一円病気が出ている。り患していない種いもを各農家で探すのか。また、町としての対策は。 ・堆肥への支援がある。10a 当たり、一万円以内である。このことで堆肥の需要が高まるが、量は確保されるのか。 ・苗・苗床消毒用殺菌剤等へ支援があるが、二分の一以内である。いもの基腐病に対する健全性を確保するための支援であるが、町として苗床殺菌剤等へ支援をすべきではないか。 <p>○温泉ドームの大規模改修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去5年を顧みて、光熱費に含まれる燃料である灯油と薪ボイラーとの燃費の比較はどうだったか。 ・薪ボイラーは、経費が削減されるといって設置された。今回の改修においても設計の中で、それが勘案されているか。

5	中原 稔	町 長	<p>○準用河川の維持・管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の維持・管理について。 河川敷内に立竹木や雑草が繁茂しているところがある。災害発生の原因となり得る支障立竹木や雑草の撤去が必要と思われるが、現状をどのように把握し維持管理しているか。 ・今後の維持・管理について。 良好な河川の機能を維持するためには、定期的な維持管理作業が必要不可欠である。 河川管理について、今後どのように実施していくのか。
6	益山 二郎	町 長	<p>○防災対策等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各避難所の収容人数はいくらか。 食料、水、寝具等の備蓄は何人が何日急場を過ごせることを想定してあるのか。また、期限切れのものについての処分方法は。 夜間の避難に対しての対策はどうなっているのか。 暑さ寒さの対策はどうなっているのか。 プライバシーの保護対策はどうなっているのか。 トイレに対しての準備は万全か。 避難所近辺の民間住宅にも協力を頂くためにも、それを見越した周知方法が必要だと考えるが、町の考え方と対策はどうなっているのか。 ・ハザードマップ等を配布してあるが、非常時に対しての訓練が必要であると考え。避難訓練の現状を問う。 ・危険個所の安全確認作業は行っているのか。 ・非常時には役場職員や町消防団員、国土交通省等の公的職員、協定を結んである各種団体等との連携が必要と考えるが訓練等において各々の役割分担等は協議され、確認を行っているのか。 ・消防団員に対し避難時の住民への誘導等の訓練が必要と考えるが、その実態を問う。 ・自助・共助・公助のあり方を過去答弁しているが、町民に対しこのあり方を広報等で広めることで、町民のより良い理解をもらえるようにすべきではないか。 <p>○河川に対する防災対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度も台風等の大雨により多くの犠牲者が出てしまった。本町でも過去の水害を教訓にして対策は講じてあるが、決してありえない災害ではない。昭和13年の大水害以降、甚大な被害は出ていないが、近年の自然災害は想定外のものが頻発している中で執行部に対し質問を行う。 ・堤防の強靱化を国・県に要望しているものと考えますが、スーパー堤防化へ取り組む考えはないか。 ・高山川やそれに続く肝属川の川底が隆起、低下している箇所が町民の方々より問題提起されている事例があるが、町は把握しているのか。それが原因だとは言いきれないかもしれないが堤防の底盤部分に浸食が見られる。これは堤防の強度に支障があるのではないかという意見もある。国土交通省と協議を行い、補修・補強について取り組むべきではないか。